



季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

〔第三八六号〕

しょうかん
小寒

一月六日

参宮双六

寒中お見舞い申し上げます。お正月気分がまだ続きますが、二十四節気は早くも「小寒」、寒の入りとなりました。室内の遊びとして、かつて「参宮双六」というものがありました。

参宮双六は、「道中双六」といわれるものの一つで、江戸時代中期頃から人気ができました。人々が旅をする街道、つまり道中を題材にした「すごろく」です。参宮はお伊勢参りのこと。お伊勢参りは、江戸時代の人々にとって、「一生に一度」と憧れた旅でしたので、江戸や大坂、京都を振り出し（スタート）にして、上がり（ゴール）が伊勢神宮となっています。道中の各宿場を一マスとして四角くマス目に切っており、右下の振り出しから左回りに進み、上がり（中央）に大きく描かれています。

おかげ横丁の大黒ホールで開催された企画展「遊び」（伊勢市主催）で、「伊勢参宮膝くりげ道中双六」の拡大パネルを見て、その面白さに気づきました。「膝くりげ」とあるのは、享保二年（一八〇二）に出版された十返舎一九の『東海道中膝栗毛』が大流行したため、その内容を盛り込んだ道中双六が現われたからです。どおりで、男性二人組の旅人が、宿場ごとに追い剥ぎにあっていたり、喧嘩をしていたり、時には雨に降られたりと、面白おかしく描かれています。ゲーム性もあって、上がりの前には、目がきちんと出ないと戻る仕組みになっています。

また、大坂からの道中双六は、伊勢にあまり詳しくない画家が描いたのか、順序が少々あやしいものも。明治時代の京都からの双六は女性二人旅で、汽車も描かれています。

こうした道中双六で遊んでいると、自然とお伊勢参りが疑似体験でき、憧れが募るように思いました。現代版の「参宮双六」があれば、遊んでみたいと思った次第です。

文 千種清美



おかげの里便り

おかげ横丁

○『新春郷土芸能』

お正月にふさわしい、縁起の良い郷土色豊かな伝統芸能が繰り広げられます。三重県には古くから受け継がれた民俗芸能や文化財が数多く残されており、地域に根づく郷土芸能の数々が新しい年を祝い伊勢に集まります。めでたい新春のひとときをお過ごしください。

日時／1月14日(土)、15日(日)、22日(日)

場所／おかげ横丁一帯

※諸事情により内容が一部変更になる場合がございます。

● 伊勢萬歳

正月に家々を訪問し、舞や歌でその家の繁栄を祈る「伊勢萬歳」。現在、唯一伊勢萬歳師の名を持つ鈴鹿市の村田社中の方々に披露していただきます。

日時／1月14日(土)

● 浜田大山車の舞獅子

四日市旧南濱田地区に伝わる舞獅子は諏訪神社の祭礼「四日市祭」で奉納された4両あった大山車(おおやま)の上で舞われていた獅子舞の一つです。平成20年に、四日市無形民俗文化財に指定されました。

日時／1月15日(日)

● 伊勢大神楽

獅子舞のルーツで、江戸時代、伊勢地域に伝わる“御頭神事”に“放下”と呼ばれる曲芸を交え、伊勢神宮にお参り出来ない人のために諸国を巡り、神楽奉納の代役を務めたのが始まりです。国の重要無形民俗文化財にも指定されています。

日時／1月22日(日)

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」電話0596-23-8838

五十鈴塾

○『伊勢国司北畠氏の歴史⑥』

三重県内各地に伝えられる伊勢国司北畠氏関係の古文書を読み解くことで、中世後期の伊勢を生き抜いた北畠氏の歴史を見ていこうというシリーズの第6回目。今回は応仁の乱に際して伊勢国司と守護を兼ねた北畠政郷(政勝・逸方)の古文書を読みながら、伊勢国内に大きく版図を広げた時代について考えてみます。中世の古文書を読めるようになりたいと思っている方、大歓迎!!

と き／1月16日(月) 13:30~15:00

講 師／岡野 友彦(皇學館大学文学部長)

参加費／一般 1,400円 会員 900円

場 所／五十鈴塾右王舎

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

※新型コロナウイルス感染拡大予防のため中止となる可能性があります。

五十鈴茶屋

○『五十鈴茶屋節気菓子』

えとがし
う
干支菓子・卯
(1月1日~19日まで販売)

早春らしい淡い黄色の羊羹の上に、ふんわりと蒸し上げた白いかるかん生地。山羊の風味と口あたりの良い食感をお楽しみください。

きまくじつ
旭日
(1月1日~7日まで販売)

紅色の練り切りに、神々しい陽の光を表した金箔を添えて初日の出に見立てました。おめでたい新春の気分が溢れます。
【白餡】

よろこ
佳び
(1月8日から19日まで販売)

新たな年を迎えたよろこびを紅白のきんとんで表現しました。
【山羊入りきんとん・つぶ餡】